



大牟田市
都市計画
マスタープラン



Omuta City Master Plan

全体構想：都市整備の方向

- 1 都市整備の基本理念
- 2 都市整備の主要課題
- 3 都市整備の基本目標
- 4 将来の都市空間の姿





©2016 大牟田市公式キャラクター
「ジャー坊」

第3章 全体構想：都市整備の方向

全体構想は、都市の骨格となる全市レベルの将来像を示すとともに、これを実現するための主要な手法である都市計画を定める際の総合的な指針となるものです。

全体構想は、3章で「都市整備の基本理念」、基本理念に沿った「都市整備の基本目標」、これらに基づく都市関連施策の展開を図るための都市構造と将来像を示す「将来の都市空間の姿」、4章で市全体の都市整備の方針を部門ごとに示す「部門別方針」で構成しています。

1. 都市整備の基本理念

都市の将来像を実現するため、都市整備の観点から、以下の3つの基本理念を設定します。

(1) 住み・働き・にぎわう市民がいきいき暮らせる都市づくり（交流・活力）

経済・産業の停滞や人口減少が続く中において、九州新幹線の開通や有明海沿岸道路の整備、世界文化遺産の登録など、本市を取り巻く環境は大きく好転しています。一方で、働き場所の少なさやにぎわいのなさを感じている市民も多いことから、**住みやすさや産業振興、にぎわい創出に重点を置いた市民がいきいきと暮らせる都市づくりを目指します。**

(2) 市民が安心して便利に生活できる住みやすい都市づくり（利便・快適）

今後の都市整備においては、人口減少や高齢化が進む中で、ずっと住み続けられる持続可能な都市に少しずつ転換していくことが重要になることから、**市民が安心して便利に生活できる住みやすい都市づくりを目指します。**

(3) 愛着と誇りのもてるふるさとをみんなで作る都市づくり（郷土・協働）

市民・企業への意向調査においても本市に愛着や誇りをもたれる方は非常に多く、まちづくりや福祉での地域活動が盛んで自助・共助の精神が市民に深く醸成されつつあります。“郷土創生への思いが協働を生み、協働が郷土創生を実現していく”という考えに基づき、**市民・企業・行政等のみんなで、愛着と誇りのもてる都市づくりを目指します。**

2. 都市整備の主要課題

都市整備の基本理念を踏まえ、前章で示したまちづくりの目標の実現に向けて、都市整備として対応しなければならない主要課題を以下に整理します。

(1) 都市構造に関する都市整備の課題

◆市民の快適な生活を維持・確保するための課題

人口減少が進むことで、空家の発生や身近な店舗の減少など、たくさんの市民生活への影響が生じてきます。一方、高齢化が進むことで、日常の生活を支える公共交通を必要とされる方も多くなると予想されます。

⇒ 今後は 歩いて生活できるコンパクトな都市づくりへの転換と、道路・交通ネットワークの充実が必要です。

◆既存集落の活力を維持するための課題

市街化調整区域に点在する既存集落では、人口減少や後継者不足が進み、地域コミュニティの崩壊や活力の低下が進行しつつあります。

⇒ 既存集落については、定住促進と1次産業従事者の確保が必要となっています。

(2) 都市活力に関する都市整備の課題

◆企業の活力があふれ成長するまちとするための課題

市民の働き場所を確保するには、工場などの企業誘致が効果的です。企業誘致を進めるためには、企業が産業活動しやすい環境を確保することが重要となります。

⇒ 発達した広域交通網を活かし、産業活動しやすい場所を創出することが必要です。

◆にぎわいと活力あふれるまちとするための課題

都市のにぎわいは大牟田の顔となる中心市街地の状況で印象づけられるため、コンパクトなまちづくりと連動した中心市街地周辺のにぎわいの回復が必要です。

⇒ 機能集約と魅力ある都市空間形成による中心市街地のにぎわいづくりが必要です。

⇒ 恵まれた交通アクセスや観光資源を活かした 人流・物流を促進する新たな拠点形成が必要です。

(3) 市民生活に関する都市整備の課題

◆地域活動とまちづくりを連携するための課題

今後、少子高齢化や共働き世帯の増加が進む上で、高齢者や児童の見守り体制の必要性はより一層高まることが予想されます。全国に先駆けて取り組まれている地域の福祉活動や校区別のまちづくり活動は、今後のまちづくりに必要不可欠です。

⇒地域活動とまちづくり政策が連動し、市民が活動しやすい環境づくりを進めることが必要です。

◆健康で豊かな心を育むまちにするための課題

大牟田市が住み・働き・にぎわう都市に発展するには、市民が健康でいきいきとした生活を営むことが重要です。

⇒スポーツや文化、余暇活動しやすい環境づくりへの取り組みが必要です。

◆災害に強いまちにするための課題

地震災害や頻発する豪雨災害により市民生活における防災対策の重要性は高まっています。

⇒居住地の防災性の強化と自助・共助の精神を活かした地域防災向上への取り組みが必要です。

(4) 都市環境に関する都市整備の課題

◆居住性に優れたまちにするための課題

居住性に優れたまちは、日常生活に必要な施設が利用しやすく、交通の利便性の良いことなどが挙げられますが、このような場所にできるだけ多くの方に住んでいただく必要があります。

⇒居住性に優れた場所への定住促進や居住性の向上が必要です。

◆個性豊かな魅力あふれるまちにするための課題

都市の個性や魅力は、これまでの歴史や文化によって醸し出されるものです。

⇒本市の歴史や文化を活かしたまちづくりの取り組みが必要です。

◆自然環境を守り・活用するための課題

都市空間における自然要素は、生活に豊かさとやすらぎを与える重要な役割を担います。

⇒市街地周辺の緑地の保全と河川などの身近な自然の活用が必要です。

3. 都市整備の基本目標

都市整備の基本理念と課題を踏まえ、将来の都市空間の姿と部門別方針を構築するための前提となる目標を都市整備の基本目標として以下のように設定します。

都市構造

コンパクトで便利なまちを目指します

誰もが利用しやすい交通環境を目指します

既存集落の活力の維持に努めます



大牟田市は、これから更に人口減少が進んでいきます。人口減少が進むと市街地内の人口密度が低下し、空き地や空家が増え、効率の悪い市街地が形成されることになって、地価の下落や産業の縮小を助長する要因にもなります。一方、道路や橋梁、上下水道などの老朽化によって施設の維持管理費は増加していくことになります。

大牟田市では、このような都市の悪循環を改善するため、市街地のコンパクト化と公共交通のネットワークの充実を図り、効率の良い市街地と車を利用しなくても生活できる居住環境の創出を進め、将来にわたって持続可能な都市づくりを目指します。

また、市街化調整区域に点在する既存集落では、後継者不足や高齢化が深刻であることから、建築許可の緩和を行うなど、既存集落の活力を維持・増進するための取組みを進めます。

都市活力

産業活動しやすいまちを目指します

中心市街地のにぎわいを回復します

たくさんの人が交流するまちを目指します



新大牟田駅の開業や有明海沿岸道路の開通によって、大牟田市の広域交通環境は大きく飛躍しました。他都市への移動時間は大幅に短縮し、企業誘致や観光産業などにおけるポテンシャルが向上しています。また、近代化産業遺産の世界文化遺産への登録は、本市の交流人口拡大の追い風となります。

大牟田市では、この好機を活かし、生活圈域の拡大と交流人口の増加を見据えたまちづくりの転換を進めるとともに、中心市街地や新大牟田駅周辺のにぎわいの創出、新たな産業誘致、産業振興策と一体となった適正な土地利用の誘導に取り組むことで、たくさんの人が交流するにぎわいに満ちたまち、多くの企業が立地する産業活動が盛んなまちの実現を目指します。

市民生活

市民がみんなで支え合うまちを目指します

健康で豊かな心を育むまちを目指します

安心して安全に暮らせるまちを目指します



大牟田市は、これから少子高齢化や共働き世帯の増加が進む上で、高齢者や児童の見守り体制の必要性がより一層高まることが予想されます。全国に先駆けて取り組まれている地域の福祉活動や校区的のまちづくり活動は、今後のまちづくりには必要不可欠です。また、大牟田市が住み・働き・にぎわう都市に発展するためには、市民が健康でいきいきとした生活を営むことが重要であり、浸水や土砂崩れなどの自然災害に強いまちづくりを進めていくことが必要です。

大牟田市では、地域活動とまちづくり政策が連動することで市民活動しやすい都市環境を整え、スポーツや文化、余暇活動しやすい健康的で文化的なまち、居住地の防災性の強化や市民の自助・共助の精神を活かした地域防災力の向上によってずっと住み続けられるまちを目指します。

都市環境

居住性に優れたまちを目指します

個性豊かな魅力あふれるまちを目指します

自然豊かな愛着のあるまちを目指します



全国的な人口減少が進む中で、定住人口を維持・増加していくためには、居住地としての魅力を高めていくことが重要となります。大牟田市には、大蛇山などのお祭りや近代化産業遺産などの文化的資源が豊富にあり、市街地を取り囲む豊かな自然環境も都市の個性として重要な要素です。

大牟田市では、市民が便利に豊かな生活を送ることができる居住性に優れた市街地の形成を目指します。

都市の個性や魅力は、これまでの歴史や文化によって醸し出されるものであるため、本市固有の歴史や文化を最大限に活用した魅力あふれるまちを目指します。

また、本市を取り囲む豊富な自然は、生活に豊かさとやすらぎを与える重要な役割を担うため、海や河川、豊富な緑地を守り・活用した愛着のあるまちを目指します。

■都市整備の方向

都市構造

コンパクトで便利なまちを目指します

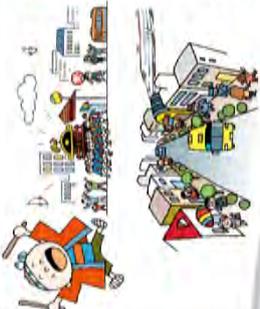
誰もが利用しやすい交通環境を目指します

既存集落の活力の維持に努めます

大牟田市は、これから更に人口減少が進んでいきます。人口減少が進むと市街地内の人口密度が低下し、空き地や空き家が増え、効率的な市街地が形成されることになり、地価の下落や産業の縮小を助長する要因にもなります。一方、道路や橋梁、上下水道などの老朽化によって施設の維持管理費は増加していくことになります。

大牟田市では、このような都市の悪循環を改善するため、市街地のコンパクト化と公共交通のネットワークの充実に努め、効率的な市街地と車を利用しなくても生活できる居住環境の創出を進め、将来にわたって持続可能な都市づくりを目指します。

また、市街地調整区域に点在する既存集落では、後継者不足や高齢化が深刻であることから、建築許可の緩和を行うなど、既存集落の活力を維持・増進するための取組みを進めます。



産業活動しやすいまちを目指します

中心市街地にぎわいを回復します

たくさんの人が交流するまちを目指します

新大牟田駅の開業や有明海沿岸道路の開通によって、大牟田市の広域交通環境は大きく飛躍しました。他都市への移動時間は大幅に短縮し、企業誘致や観光産業などにおけるポテンシャルが向上しています。また、近代化産業遺産の世界文化遺産への登録は、本市の交流人口拡大の追い風となります。

大牟田市では、この好機を活かし、生活圏の拡大と交流人口の増加を契機にまちづくりの転換を進めるとともに、中心市街地や新大牟田駅周辺にぎわいの創出、新たな産業誘致、産業振興策と一体となった適正な土地利用の誘導に取り組み、これまで、多くの人が交流するにぎわい活動が盛んなまちの実現を目指します。

市民が安心して便利に生活できる住みやすい都市づくり

(利便・快適)

愛着と誇りあふれるまちづくり (個性・快適)

住み・働き・にぎわう

持続可能な快適環境都市

都市の将来像

住み・働き・にぎわう

大牟田市は、これから少子高齢化や共働き世帯の増加が進む中で、高齢者や児童の見守り体制の必要性がより一層高まることが予想されます。全国に先駆けて取り組まれている地域の福祉活動や校区別のまちづくり活動は、今後のまちづくりには必要不可欠です。また、大牟田市が住み・働き・にぎわう都市に発展するためには、市民が健康でいきいきとした生活を営むことが重要であり、浸水や土砂崩れなどの自然災害に強いまちづくりを進めていくことが必要です。

大牟田市では、地域活動とまちづくり政策が運動することによって市民活動しやすい都市環境を整え、スポーツや文化、余暇活動しやすい健康的で文化的なまち、居住地の防災性の強化や市民の自助・共助の精神を活かした地域防災力の向上によってずっと住み続けられるまちを目指します。

市民がみんなでお互いに支え合うまちを目指します

健康で豊かな心を育むまちを目指します

安心して安全に暮らせるまちを目指します



居住性に優れたまちを目指します
個性豊かな魅力あふれるまちを目指します
自然豊かな愛着のあるまちを目指します

全国的な人口減少が進む中で、定住人口を維持・増加していくためには、居住地としての魅力を高めることが重要となります。大牟田市には、大牟田山などのお祭りや近代化産業遺産などの文化的資源が豊富であり、市街地を取り囲む豊かな自然環境も都市の個性として重要な要素です。

大牟田市では、市民が便利に豊かな生活を送ることができ、居住性に優れた市街地の形成を目指します。都市の個性や魅力は、これまでの歴史や文化によって醸成されたものであるため、本市固有の歴史や文化を最大限に活用した魅力あふれるまちを目指します。また、本市を取り囲む豊かな自然は、生活に豊かさややすらぎを与える重要な役割を担うため、海や河川、豊富な緑地を守り・活用した愛着のあるまちを目指します。

4. 将来の都市空間の姿

(1) 将来の都市空間の姿の構成

将来の都市空間の姿は、「土地利用区分」「拠点の配置」「軸の配置」の3つの要素で構成します。

ゾーン	・土地利用等の面的なまとまりと同じ方向性を持つ場所
拠点	・都市機能が集積し、都市空間の骨格となるまとまりのある空間
軸	・地域内外のネットワークを形成する道路、河川及びその沿線など連続性のある空間 ・将来の都市空間を実現していく上で線的に連続する空間

①土地利用区分

地形条件や地域特性に基づくとともに、都市全体の開発・保全のバランスなどの視点から、大きく8つのゾーンに区分します。

◆産業地ゾーン：既存の工業地等

産業地ゾーンは、既存の工業地等で構成されるゾーンとして、公害の防止対策や緑の配置等、周辺環境に配慮しながら、工業機能の維持・増進を図ります。臨海部では、有明海沿岸道路の開通に伴う交通利便性の向上に対応した流通業務機能の拡充を進めます。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・産学官連携の研究開発によって石炭関連産業の技術を活用した製品技術の開発や高付加価値型産業の集積等により新産業への転換が進み、それに伴う工場や技術研究センター等が立地している。
- ・工場敷地内の緑によって、周辺の住宅地との調和が図られるとともに、就業者に安らぎを提供している。

◆住宅地ゾーン：低層住宅地、中層住宅地、商業地等

住宅地ゾーンは、低層住宅地、中層住宅地、商業地等で構成されるゾーンとして、それぞれの特性に合わせた良好な住環境の維持・形成を図ります。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・住宅地では、緑豊かでゆとりがあり、子育て層を中心とするファミリーや高齢者が快適に暮らしている。
- ・身近に利用できる公園では、子どもから高齢者まで多様な世代が、気持ちよく（安全・安心・快適）憩い、出会う場所として親しまれている。
- ・住民は、緑豊かなゆとりある居住環境づくりに取り組んでいる。
- ・災害にも強い住宅地では、安心して住み続けることができる。
- ・地域の歴史や文化が感じられる街並みや歴史資源をたずねて散策する人が増えている。

◆文教・医療ゾーン：JR銀水駅・西鉄銀水駅周辺や西鉄倉永駅・JR吉野駅周辺

文教・医療ゾーンは、市外居住者の日常的な流入が見られる教育施設や医療施設が集積するゾーンとして、JR銀水駅・西鉄銀水駅周辺や西鉄倉永駅・JR吉野駅周辺に設定し、一定の都市機能を有する複合市街地を形成しつつ、落ち着いた街並みの形成に努めます。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・周辺からの医療施設の利用者や高等教育施設へ通学する生徒などの人々が多く集まり、多様な世代の交流が促進している。
- ・質の高い教育や医療環境を求め、多くの人々が快適に住み続けている。

◆観光交流ゾーン：近代化産業遺産周辺

観光交流ゾーンは、観光資源を活かした整備により観光地としてにぎわうゾーンとして、近代化産業遺産周辺に設定し、周辺地域の公共施設や街並みに関する景観形成や屋外広告物の規制など、魅力ある都市空間の創出に努めます。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・近代化産業遺産を求め、市内外から来訪する多くの人々でにぎわっている。
- ・近代化産業遺産周辺では、良好な景観形成が進み、本市を特徴づけるゾーンとなっている。

◆レクリエーションゾーン：延命公園周辺

レクリエーションゾーンは、市民のスポーツ・憩いの空間となるゾーンとして延命公園周辺に設定し、市街地内の憩いとスポーツ・レクリエーション活動の中心として、多くの人々が訪れることができる緑豊かな都市空間として活用します。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・多くの人々が訪れ、憩い、交流する、緑豊かな都市空間が形成されている。
- ・延命公園へのアクセスが向上し、快適に利用できるようになっている。

◆田園ゾーン：農地、既存集落等

田園ゾーンは、農地、既存の集落等で構成されるゾーンとして、優良農地の保全と既存集落の活力維持を図ります。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・丘陵地の緑を背景に、幹線道路沿いも含めて良好な農地による緑豊かな田園景観が広がっている。
- ・既存集落では、農地と調和が図られた既存の集落や生活に必要な最低限のサービス施設が整い、多様な世代が快適に暮らしている。

◆緑のゾーン：丘陵地の山林

緑のゾーンは、丘陵地の山林で構成されるゾーンとして、市街地を取り囲む良好な自然環境としての維持・保全を図ります。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・丘陵地の豊かな緑が市街地を取り囲み、緑に包まれた公園や展望台、散策路では、自然と身近にふれあえる場所として市民に親しまれている。

◆海のゾーン：有明海、干潟

海のゾーンは、干潟、海岸線で構成されるゾーンとして、有明海や干潟の自然環境を保全します。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・有明海の干潟は、良好な自然環境として市民に親しまれ、有明海の景観を求めて来街者が訪れている。

②拠点の配置

◆都市拠点：中心市街地周辺

都市規模に応じた高次の都市機能を有する場所であり、様々な都市機能が集積するにぎわいのある拠点として、市の玄関口にふさわしい都市空間を形成します。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・鉄道、路線バスによる交通アクセスが良く、教育・文化、医療・福祉、生活利便、居住、憩い等の多様な機能が集積する利便性の高い市街地となっている。
- ・JR・西鉄大牟田駅や西鉄新栄町駅周辺は、本市の玄関口にふさわしい良好な都市景観や、施設のユニバーサルデザイン化が進み、誰もが安全・安心で快適に利用できる質の高い都市空間となっている。その利便性、快適性に魅力を感じて多様な世代の居住者が増え、新しいコミュニティを形成する生活拠点となっている。
- ・市内周辺地域や周辺市町から買い物客等、多くの人を訪れている。

◆地域拠点：吉野地域、手鎌地域、三池地域、勝立・駛馬地域、三川地域

地域住民の日常生活に必要とされる生活サービス機能を有し、地域の人口規模に応じた都市機能増進施設を誘導します。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・商店街、スーパーマーケット等の商業施設やサービス施設など日常生活に対応した施設が、徒歩や自転車で利用でき、地域住民が顔を合わせるコミュニティの中心としてにぎわっている。
- ・地域住民は、交通アクセスの良い幹線道路や公共交通などを利用して地域と中心部を行き来し、地域で足りないものを中心拠点で充足するなど、生活ニーズを満たしている。

◆地区拠点：倉永地区、上内地区、銀水地区、羽山台地区、白川地区、平原地区、高取地区、天領地区、駛馬地区、玉川地区

小学校区毎の地区レベルでの市民活動を支えるために必要な機能を有する拠点を形成します。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・地区住民が車等での移動に頼ることなく生活できる必要最小限のサービス施設が立地し、地区コミュニティ活動の中心としてにぎわっている。
- ・公共交通などを利用しながら地区と中心部や周辺地域を行き来し、地区で足りないものを中心拠点や地域拠点で充足するなど、生活ニーズを満たしている。

◆産業拠点：テクノパーク、エコタウン

高付加価値型産業や環境リサイクル関連産業をはじめとした産業が集積する拠点を形成します。

<将来の都市空間のイメージ>

- ・テクノパークでは、優れた交通アクセスと丘陵地の豊かな自然環境を背景に、高付加価値型産業が集積する、恵まれた交通アクセスを有する緑豊かな工業団地になっている。
- ・エコタウンでは、RDF 関連施設やリサイクルプラザ、エコサンクセンター等を核として、広域的な環境保全を目指す環境・リサイクル産業施設の集積地となっている。

◆広域交流拠点：新大牟田駅周辺地区、岬町地区、三池港周辺地区

主要な交通結節点や集客施設の集積する場所で、多くの人交流する拠点を形成します。

＜将来の都市空間のイメージ＞

- ・新大牟田駅周辺地区では、交通アクセス性の高い交通結節点となり、市内の各拠点と連携しつつ、市民や九州各地、全国各地から来街者が訪れ、にぎわいが創出されている。また、広域交流拠点としてのポテンシャルを活かし、周辺においては「にぎわい」や「産業の多様化」を創出する拠点として計画的な土地利用が進み、本地区全体が広域交流拠点にふさわしい都市空間となっている。
- ・岬町地区では、大規模集客施設や大学などの立地や、石炭産業科学館や諏訪公園などの既存の施設に多くの人交流する場所となり、新たな企業立地や都市機能の集積が進む地区となっている。
- ・三池港周辺地区では、恵まれた交通アクセス・港湾機能と自然・世界文化遺産をはじめとする近代化産業遺産等の地域資源を活かした人と物が交流する港となっている。

③軸の配置

鉄道の公共交通による都市間の効率的な拠点間連携を図る「基幹公共交通軸」、及び、道路を中心に、地域内外の拠点と拠点をつなぎ、人や物の交流を促す「主要道路軸」を設定します。

また、本市の豊かな河川を中心に、山林・農地と有明海をつなぐ市街地にうるおいを与える「自然軸」を設定します。

◆都市軸

＜基幹公共交通軸＞

JR鹿児島本線や西鉄天神大牟田線、九州新幹線といった様々な鉄道の公共交通ネットワークを活かした、都市の活力を支える公共交通ネットワークを構築します。

＜将来の都市空間のイメージ＞

- ・公共交通へのアクセス性や乗換えの利便性が向上し、多くの市民が公共交通を利用して快適に移動している。
- ・周辺都市からも公共交通を利用して大牟田市に訪れるようになっている。

＜主要道路軸＞

恵まれた広域的な交通ネットワークを活かし、人や物の交流を促すために、放射環状型の道路網の形成を図ります。

＜将来の都市空間のイメージ＞

- ・広域幹線道路により、福岡市や九州各地への交通利便性が向上し、市域内外の広域的交流が容易になり、人や物の交流も増え、産業活動も活発化している。
- ・幹線道路によって市の中心部と地域の中心が円滑に結びつき、市内での生活の利便性が向上し、誰もが安全・安心で快適に利用している。

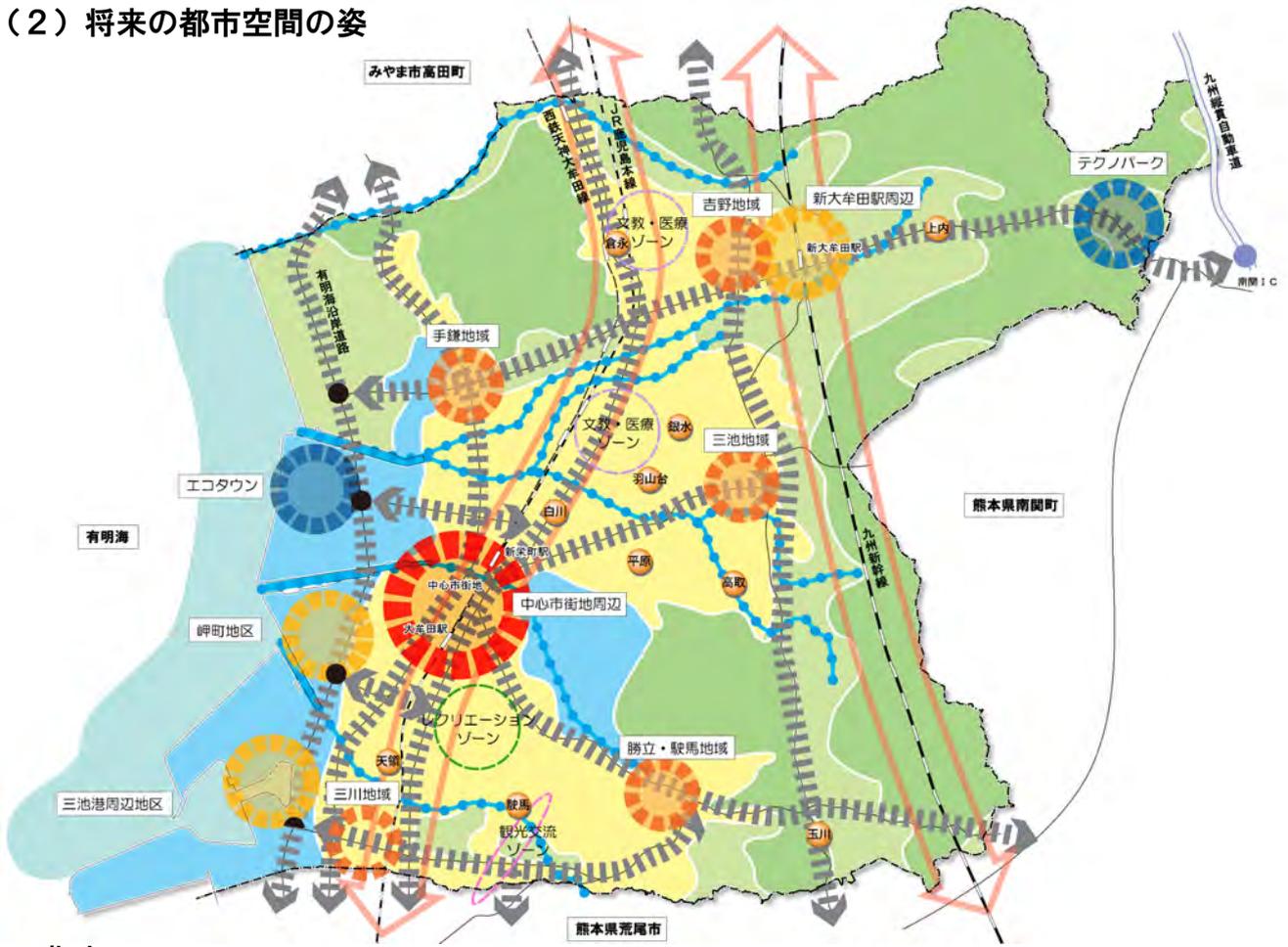
◆自然軸

有明海や河川等の水辺を保全するとともに、街路樹や農地、歴史資源等をつなぎ、水と緑を身近に感じられるネットワークの形成を図ります。

<将来の都市空間のイメージ>

- 河川沿いは、市街地から有明海、田園部への連続性によって水と緑を身近に感じられる場所となっている。
- 河川では、安全に水辺に近づけるようになり、親子連れが魚とりや水遊びをしている。
- 市街地と東部の丘陵地と有明海の回遊性が高まり、地域住民が散策している。

(2) 将来の都市空間の姿



《拠点》

生活拠点	都市拠点		《中心市街地周辺》 広域的な公共サービスを提供する高次な都市機能を有し、様々な機能を備えた、市の玄関口にふさわしい都市空間を形成
	地域拠点		《吉野、手鎌、三池、三川、勝立・駿馬》 都市拠点を補完し、地域単位でより多様な生活サービス機能を備えた拠点を形成
	地区拠点		《倉永、上内、銀水、羽山台、白川、平原、高取、天領、駿馬、玉川》 小学校区単位を基本として、地区住民の日常生活レベルの施設を備えた拠点を形成
産業拠点			《テクノパーク、エコタウン》 高付加価値型産業や環境リサイクル関連産業をはじめとした産業が集積する拠点
広域交流拠点			《新大牟田駅周辺、岬町、三池港周辺》 主要な交通結節点や集客施設の集積する場所で、多くの人が交流する拠点

《軸》

都市軸	基幹公共交通軸		鉄道の公共交通により他都市との効率的な拠点間連携を図る軸
	主要道路軸		道路を中心に地域内外の拠点と拠点をつなぎ、人や物の交流を促す軸
自然軸			河川を中心に山林・農地と有明海をつなぐ市街地にうるおいを与える軸

《土地利用》

産業地ゾーン		既存の工業地等で構成されるゾーン
住宅地ゾーン		低層住宅地、中層住宅地、商業地等で構成されるゾーン
文教・医療ゾーン		市外居住者の日常的な流入が見られる教育施設や医療施設が集積するゾーン
観光交流ゾーン		観光資源を活かした整備により観光地としてにぎわうゾーン
レクリエーションゾーン		市民のスポーツ・憩いの空間となるゾーン
田園ゾーン		農地、既存の集落等で構成されるゾーン
緑のゾーン		丘陵地の山林で構成されるゾーン
海のゾーン		干潟、海岸線で構成されるゾーン

大牟田市が目指すコンパクトな都市づくり

＜立地適正化計画によるコンパクトな都市づくり＞

大牟田市では、市民生活に欠かせない医療・福祉・商業などの都市機能や居住の適正な誘導を図り、公共交通と連携したコンパクトな都市づくりを推進することで、今後の急速な人口減少や少子高齢化に対応した「市民にとって利便性の高い、持続可能なまち」の実現のため、2018（平成30）年に大牟田市立地適正化計画を策定しました。

■拠点の配置イメージ

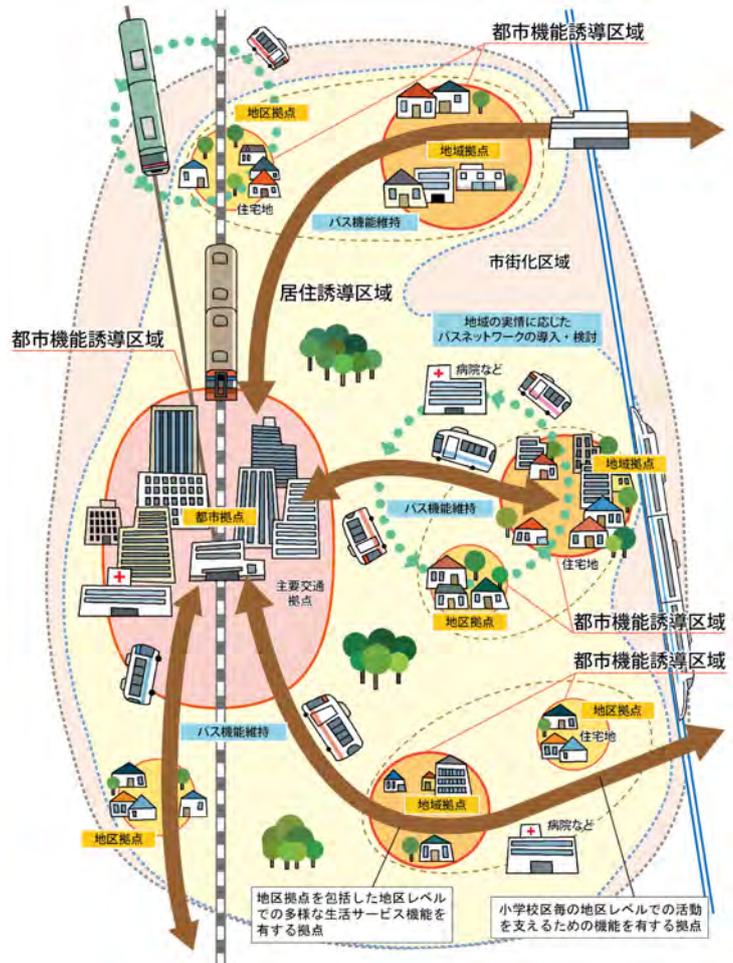
地域で暮らし続けるまちとするため、3種類の拠点を設定します。

- ① **地区拠点**：各小学校区に設定し、身近な生活のための拠点の形成を図る。
- ② **地域拠点**：各地区公民館区に設定し、複数の地区拠点を包括する拠点で、地区拠点にない施設などを補完する。
- ③ **都市拠点**：中心市街地周辺に設定し、地区拠点や地域拠点にない施設を補完したり、市内外からの来街者をもてなす拠点の形成を図る。



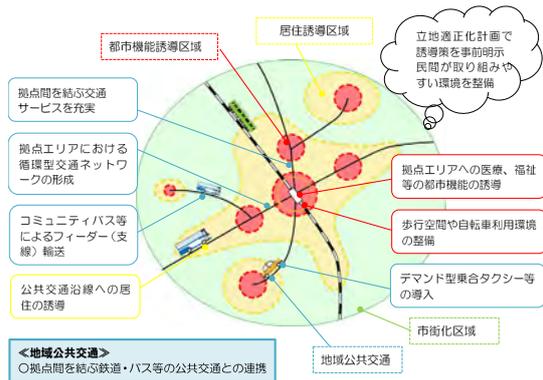
■コンパクトシティ・プラス・ネットワーク

大牟田市が目指すコンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりのイメージは下図のようになります。



■立地適正化計画とは

立地適正化計画は、今後の人口減少や少子高齢化社会を見据え、都市全体の構造を見渡し「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考えで住宅と生活サービスに関連する医療・福祉・商業等の利便施設がまとまって立地するよう、緩やかに誘導を図りながら公共交通と連動したまちづくりを進めていくための計画です。



＜都市機能誘導区域＞
 ○医療・福祉・商業等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することにより、これらの各種サービスの効率的な提供を図る区域

＜居住誘導区域＞
 ○人口減少の中にあっても一定のエリアにおいて人口密度を維持することにより、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるよう、居住を誘導すべき区域

序章
第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章



©2016 大牟田市公式キャラクター
「ジャー坊」